

新政レポート

vol. 18

令和4年5月30日

発行元

舞鶴市議会

新政クラブ議員団

責任者/幹事長 上野 修身

“議員力”が
見える
『一般質問』とは

舞鶴市議会は、議会機能の充実に向けて日々取組をしています。その一つをご紹介します。

舞鶴市議会は、毎回の議会をYouTubeで配信をしております。議会での一般質問は、議員にとって、わがまちの政策に向けての執行機関に監査・提案のできる議員力を問われるものもあります。より効果的な一般質問が、できる議員力につけるため、継続して研修を実施しています。



議員研修会～政策議会の一般質問～

目的は、定例会での
「一般質問」の質向上です。

- ◎議員にとって、「一般質問」は、議員が、議員として+政治家として自分の活動と知見を集約してわがまちの〈政策・制度〉の争点を提起し、監査・提案できる機会なのです。
- ◎議会にとって、議会の一部である議員が行政の政策執行のありかたに監査・提案することで自治体政策を間接的に制御する機会でもあります。



市民

選挙
市民活動

市の政策

公共政策

意思決定

選挙
市民活動

執行

十分に
活かされているか？



議会

行政

議案上程

監査・提案

機能する一般質問の在り方

機能する一般質問するために、論点を構造化すると

- 一般質問は「事実」「分析」「主張」で構成
- 大前提；その質問で「まちはよくなるか？」、そのために「何を問いただすのか？」
- その論点は、監査機能を果たすのか？政策提案機能を果たすのか？

主張

意見

分析

事実

論拠

監査機能、政策提案機能を果たしているか？

- 何が問題なのかが明確で、その論点提起に「納得」させられるか？
- 問題を「問題だ」と言える必要な情報が入っているか？
- 政策提案が具体的か、わがまちの状況を反映しているか？
- 一般質問の議論を通じて「納得」にたどり着く（議論という対話）



3月定例会

令和4年度当初予算 661億1935万円

ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らしの実現～3つのまちづくり戦略～



- ◆ ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らしの実現に向けた令和4年度当初予算を可決
- ◆ 大雪による雪害支援や新型コロナウイルス感染症対策で早期に議決を要する令和3年度補正予算を可決

- ◆ 京都舞鶴港既存航路の維持支援や交通安全推進事業を含む令和3年度補正予算を可決
- ◆ 「ロシアによるウクライナへの侵略を非難する決議」を議会提案し「全員賛成」で可決

代表質問



上野 修身

子どもを取り巻く良好な環境づくりについて

質問

多々見市政では、これまで子育て環境日本一を目指し、あそびあむや舞鶴こども園の整備をはじめ、中学校給食の導入、乳幼児教育ビジョンや教育振興大綱に基づく事業展開など、0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実や、医療的ケア児、ひとり親家庭など、様々な課題を抱える子どもや家庭に対する支援に取り組んでこられた。

そうした取組が2022年版「住みたい田舎」近畿エリアのベストランキングで、子育て世代が住みたいまちに舞鶴市が1位に選ばれたことにつながっていると考える。

一方で、市長が施政方針で述べられたように、虐待、生活困窮、ヤングケアラー、いじめ、不登校など、子どもや家庭が抱える課題には様々な要因があり、子どもに関連する機関が連携して対策を講じていくことが、より重要であると考える。

そのような中、市として、子どもを取り巻く良好な環境づくりに今後どのように取り組まれるのか伺う。

答弁

子どもにとっての家庭は、安心できる居場所であり、家庭での親との触れ合いで生まれる愛着心は、人に対する信頼感を育み、自己肯定感を高め子どもの社会性を醸成する。このように、家庭は、子どもの育ちを支える上で重要な役割を持っており、家庭で子育て中の親が、子どもとの絆を深め、健全な育成ができるよう、地域とも連携を図りながら子どもを育む環境整備とサポート体制に取り組んでいくことが、安心して子育てしやすいまちの実現につながると考える。

そのための体制として、健康・子ども部、市民文化環境部、福祉部及び教育振興部の横断的連携による「子どもの豊かな育みを支える環境づくり推進本部」を令和4年4月に設置し、児童虐待や生活困窮、ヤングケアラーなど、子どもの権利を侵害する実態や潜在化している問題を把握し、その未然予防や発現後の的確な対応策等について検討、推進していくとともに、子どもの人権を擁護し、未来を担う子どもたちが希望ある人生を歩んでいくよう全力を挙げて取り組んでいく。

一般質問



今西 克己

1. 加佐地域活性化センターの役割を問う

質問

住みたいまちとして、本市への移住の関心がさらに高まることが見込まれる中、加佐地域の魅力ある地域づくりを更に積極的に推し進めるため、令和4年度から加佐地域農業農村活性化センターを加佐分室に移転・集約し、加佐分室、加佐公民館と一緒に業務を実施する加佐地域活性化センターを設置。このセンターを地域活性化の拠点と位置付け、市職員が現地現場に積極的に入り、地域住民や団体等との強固な連携のもと、多様な交流推進施策などを展開していくとの説明を受けたが、その目標と方向性と所管各部の連携、地域拠点施設としての役割を問う。

答弁 地域団体と連携して取り組んでいく

新たに設置する加佐地域活性化センターでは、従来の活動に加え、地域課題への対応や、魅力ある地域づくりを推進するため、新たな事業についても加佐ふるさと塾や地域関係団体と連携して積極的に取り組んでいく。あわせて、地域農業者との関係強化や利便性向上のため、各種交付金や有害鳥獣対策の現地現場確認業務など地域に寄り添った行政窓口としてのサテライト機能についても強化していく。

2. 本市の盛土対策を問う

質問

本市では、近年、過疎化とともに中小河川沿いの空き地や耕作放棄地となった田畠、また、山あいの谷間に土砂等が搬入され場所によっては、たい積し盛土となっている。特に不適正で災害リスクの高い土砂等のたい積は、放置すれば盛土になってしまう可能性が極めて高い。災害の未然防止の観点から本市の対策を問う。

答弁 京都府と連携して取り組んでいく

本年3月、盛土規制法案が閣議決定された。農地法、法定外公共物管理条例等により京都府と連携しながら、不適切な盛土についての処置や監視を行い、安全安心の確保を第一として適宜適正な対策に努める。

一般質問



野瀬 貴則

除雪に対する支援の拡充が必要では

質問

今季は大雪の年であり12月27日には最深積雪71cmを記録し、12月の降雪量として観測史上1位となる、まさに想定外の大雪であった。高齢者の一人暮らしや核家族化など様々な要因で地域の除雪力は低下しており、住民の人力によって生活道路全てを除雪することは大変困難であった。住宅地の至るところで車がスタックしてしまい、道路を塞ぐなど多くの影響が発生した。山間部等の自治会には市が除雪機を貸与しているが、それ以外の自治会にも除雪機の貸与などの支援が必要と考える。

他にも通学路において除雪車の通った後にできる雪塊によって通学路が通行できず、子どもたちが車道を歩くことになる箇所があつたり、多くの通学路の除雪は地域の方が自主的に行っている現状がある。地域と学校が連携するために学校から保護者や地域に対して支援を訴えかける必要がある。生活道路や通学路における除雪支援に対する市の考えを問う。

答弁

除雪協力のお願いを続けていく

今年は近年にない大雪であり、地域の皆様が、除雪に苦労されたことは十分認識しており、地域の高齢化で雪かきができないというご意見も多く伺った。今後も自治会など各種団体の皆様と協力し、対応しなければならないと考えている。市街地への除雪機の貸与については高齢化や人口減少が続く今日では、自治会の負担増が深刻な課題であり、自治会支援の在り方の中で検討を行う。

通学路の除雪と安全対策については児童生徒に安全確認の徹底を指導しており、引き続き地域や見守り隊の方々にご協力いただきたいと考える。除雪体制についても日頃から沿線のご家庭や地域の方々にお世話になっているところであります、今後も、ご協力ををお願いしてまいりたいと考えています。

一般質問

市役所前駐車場の管理運営について



鯛 慶一

質問 市役所前駐車場は、赤れんがパーク来場の方など年々利用客が増え、それに伴い駐車車両の増大が現れている。現状はゲートもなく無料で車が停められ、用途外駐車をしている方がいる。

駐車場管理が必要な時期が来ている。市役所周辺駐車場は現在自由に駐車できる状態であるが、長時間駐車や夜間駐車等、目的外駐車があり、来庁者が駐車できないなど、支障を来たしている。市役所周辺駐車場の管理としてゲート設置等について市の考えを伺う。

さらに、自然の豊富な舞鶴市役所に、現状ある緑地は必要なのか。

入口正面の緑は、市役所の顔の部分であり、また車の出入りを管理する観点からもこの部分は必要かと思うが、それ以外の部分は必要ないと思う。

また人工的な自然は手入れや予算が必要である。来庁者の利便性、経費の観点から駐車スペースを増やすことにシフトしてもよいと考える。市役所周辺駐車場が慢性的に不足している中、市役所前にある正面入口から見て左右の緑地を駐車場として整備する考えがないか伺う。

答弁 市役所周辺には本庁舎前と体育館前に200台弱の駐車スペースがある。しかしイベントや期日前投票などが行われる場合駐車場が満車になり市民の皆さんに大変ご迷惑をおかけしている。

また自由に入り出しができる無料の駐車場であることから目的外の長時間駐車も見受けられる。今後利用者増大が予想されることからゲート整備を含め入退場管理を行うことが必要と考えている。

さらに市役所前緑地の有効利用については、駐車場不足が顕著な現状を考えると利用状況にあった駐車場整備の対象として検討する必要性があると考える。

舞鶴市赤れんが周辺等まちづくり実施計画において、令和4年度に実施予定の設計業務の中で、緑地を含むスペース全体の有効活用などについて検討する。

一般質問

待機児童について



水嶋 一明

質問 本市では、令和2年度4月には14人、令和3年度4月には2人の待機児童があったが、待機児童の解消につながる保育士の確保に向けて、家賃補助や就労奨励金などの対策に取り組んでこられた。

また、シオン幼稚園のように認定こども園に移行され、3号認定の定員が増員なることは、乳幼児教育の充実にもつながり、「子育てしやすいまち・舞鶴」の実現を図る上で重要な取組である。

現在の待機児童の現状はどうなっているのか、尋ねる。

答弁 本市では、令和2年度から、施設の定員が100%を超えない園があったにもかかわらず、これまでから懸案であった保育士不足により、待機児童が発生していた。

こうした事態を解消するため、令和2年4月から、求職者と現役保育士を対象とした保育士就業相談窓口を市乳幼児教育センター内に開設したほか、保育士に対する処遇改善においても、質の高い保育を日々実践していただいている保育士に対して、本市独自の賃金上乗せ補助として、月額8千円を1万2千円に増額し、さらに、その対象を常勤保育士だけでなく短時間勤務の保育士にも拡大した。

また、令和3年度には、いわゆる3号認定(0歳児から2歳児)の子どもの利用定員を設定している民間保育園や民間認定こども園に常勤保育士として採用された場合、最大50万円支給する「就労奨励金」の創設や月5万円の家賃補助等を実施してきた。そのほか、保育士の負担軽減のためのICT化の取組など離職防止にも努めてきた。

そうした、取組の結果、保育士の離職防止も含めた保育士確保につながり、令和3年10月には待機児童が解消され、また、令和4年度も年度当初において、待機児童は発生しない見込みとなっている。

一般質問

「舞鶴地域麻醉診療支援センター」と「周産期医療支援」について



田畠 篤子

質問 市長は、今後について、公的4病院の特色ある機能をさらに充実させ、連携を深化させることにより市全体で総合的に地域医療が機能する体制を推進するとともに、市民の皆様が安全安心に暮らすことができる医療の確保を図ると述べられた。現在、地域医療の在り方も、医療体制や内容も変化している。市としての「地域医療」計画が、市民への安全安心な医療体制に向けた懸念努力だということを分かりやすく説明いただきたい。

まず、「舞鶴地域麻醉診療支援センター」設立について、設置される場所、配置医師数などについてお尋ねする。また、急性期の3病院への効果的な運用方針について。次に「周産期医療について」本来なら統合が望ましいが、様々な課題により実現はしていない。行政が連携し機能することで周産期が救われると思った期待したい。周産期の医療体制確保に向けた支援強化について問う。また京都府北部唯一のNICUを持つ病院との連携についても問う。

答弁 市内における麻醉科医不足の状況が発生したことでの安定的な医療確保において懸念される状況となり、令和2年2月京都府知事に対し本市への麻醉科医派遣の要望を行った。京都府・府立医大・公的3病院・本市間で協議を重ねた結果、合意に至り現在、準備を進めている。場所は、舞鶴医療センター内とし、医師数は複数名予定であり体制等、検討を進めている。公的3病院での「患者情報共有システム」導入により安全安心な麻醉診療に繋げてまいります。

次に、「周産期医療支援」に関しては、担当課長を配置し周産期に関する病院・施設の現場に入り各種課題を把握し、必要な調整を行うなど連携を図ってまいります。NICUを有する、舞鶴医療センターは、新生児医療の拠り所であり周産期を支える施設であることから十分に連携を図ってまいります。

討論 野瀬 貴則

確実な市政運営と将来を見据えた予算編成

3月定例会に上程された全議案に対し賛成する。

令和4年度舞鶴市一般会計予算では、予算総額359.5億円となり、歳入において自主財源である市民税収入が增收予想となるなど、明るい兆しも見えつつある。ふるさと応援寄附金も倍増の約1.2億円であり、財源獲得手段も工夫を重ね積極的に実施している。

歳出では、全世代の市民に学びを提供する中央図書館の建設も視野に入れた舞鶴市図書館基本計画の策定をはじめ、加佐地域と大浦地域に活性化センターを設置し、地域課題と向き合った地域活性化の推進、更に西消防署と中出張所を統合する移転整備計画と、6消防本部の広域連携による消防指令センター整備での新たな消防体制の構築などが提案された。

ビヨンド・コロナ社会を見据えつつ、まちづくり戦略で重点施策としている、子育て、教育、医療、福祉、防災、地域経済の活性化の実現と持続可能な本市の未来像を意識した予算であり賛成する。

同水道事業会計予算では給水戸数、年間総給水量の減少に伴い、水道事業収益は毎年減少を免れない状況である。令和6年には料金改定が予定されているが、収益改善に積極的に取り組まれており、窓口業務や浄水場の操業業務での民間委託も適宜進め人件費の圧縮にも取り組んでいることから賛成する。

同下水道事業会計予算では本市の下水道整備事業は水洗化率も98%を超えており、浸水対策事業においては、京都府の高野川整備計画と連携した西市街地の浸水対策事業として5箇所のポンプ場整備を進められており、東市街地の浸水対策事業も基本設計が実施予定と伺っている。東西合わせて総合的に浸水対策を強化し、市民の生命と財産を守るために取り組まれていることから、賛成する。

当会派議員の紹介

議員の仕事は、【議会活動】と【議員活動】があります。市議会議員活動は、舞鶴市全体を対象としますが、地元の地に根差しての活動も欠かせません。新政クラブ議員団の地元とその活動をご紹介します。また議員の得意分野についてもご紹介します。議員歴によてもその活動の成果は違いますが、当会派議員はそれぞれの分野で日々コツコツと活動をしています。

たい けい いち
鯛 慶一 中舞鶴地区

【3期目/原子力防災・安全等対策特別委員会 委員長】

エネルギー関連に関心が高く未来構想に力を入れている。理数系で純朴っぽいが、計算高い笑顔満点のくめない料理人。御飯大好きが興じ米作りに専念し徐々に農地拡大中…。



ましも たかし
眞下 隆史 大浦地区

【2期目/副議長】

22区の海と山に囲まれたPAZ・UPZ範囲の地域。原発関連の課題に向き合い市民の安全を守るために努力している。地域の活性化に向けて地域課題の解決に奮闘中! 愛想良しの我が道を前進あるのみのマイペース人。



いま にし かつ み
今西 克己 加佐地区

【2期目/産業建設委員会 委員長】

35地区という広大な範囲の地域を毎日走り続け、コツコツと市民の声を聴き要望に答え、地域の議員として成果を上げている。不便を便利で心地よい田舎暮らしになるよう奮闘中! 正義の味方で実直な人物…。「飛鳥」を語れば終わりなし。



うえ の おさ み
上野 修身 祖母谷地区

【4期目/幹事長】

森林・消防団関連に強く課題解決への取組が主。何かと相談を請負う温厚な性分で周囲の信頼も厚い。見た目も中味も渋い男前(笑)



のせ たかのり
野瀬 貴則 高野地区

【1期目/ICT検討部会座長】

IT関係に詳しく今期の議会のIT化のリーダーとして活動。最年少議員として周囲の気配り目配りしながらも、言うべきことを言い懸命に課題に取り組んでいる。将来に期待できる存在。



たばた あつこ
田畠 篤子 与保呂地区

【1期目/福祉健康委員会 副委員長】

医療・看護・介護・福祉・障害等の分野において専門性を活かしての活動が主。看護の視点は市政と同じ。人の命と暮らし環境を整えることと、常に「論破」して行政改革に臨む姿勢を保ち議員として成長中。



みずしま かずあき
水嶋 一明 中筋地区

【3期目/京都府後期高齢者医療広域連合議会議員】

舞鶴老人クラブ連合会のほか常に地元に根ざした活動が主。地域の河川安全対策など、公共整備を念入りに詳細に確認。



新政クラブ議員団は、市民皆様の声を聴き市政に活かす努力を惜しみません。今後とも、議員を身近に感じていただきお声かけください。